

授業づくりガイドブック

平成28年度版



新潟市教育委員会

はじめに

このガイドブックは、日常の授業の中に「学習課題とまとめ・振り返り」が位置付き、アクティブ・ラーニングが当たり前のように行われる教室を実現するために作成したものです。

これまで新潟市教育委員会は、教師の授業力向上のために、二つのリーフレット「新潟市の授業づくり」「新潟市の生徒指導」と生徒指導ガイドブック「授業づくりと生徒指導の一体化を目指して」を作成し、それに基づく授業改善を推進してきました。



この**授業づくりガイドブック**は、新潟市の目指す授業づくりについて、できるだけ分かりやすく解説したものです。

より一層、子どもたちの学びを豊かにするために、校内研修等で御活用ください。

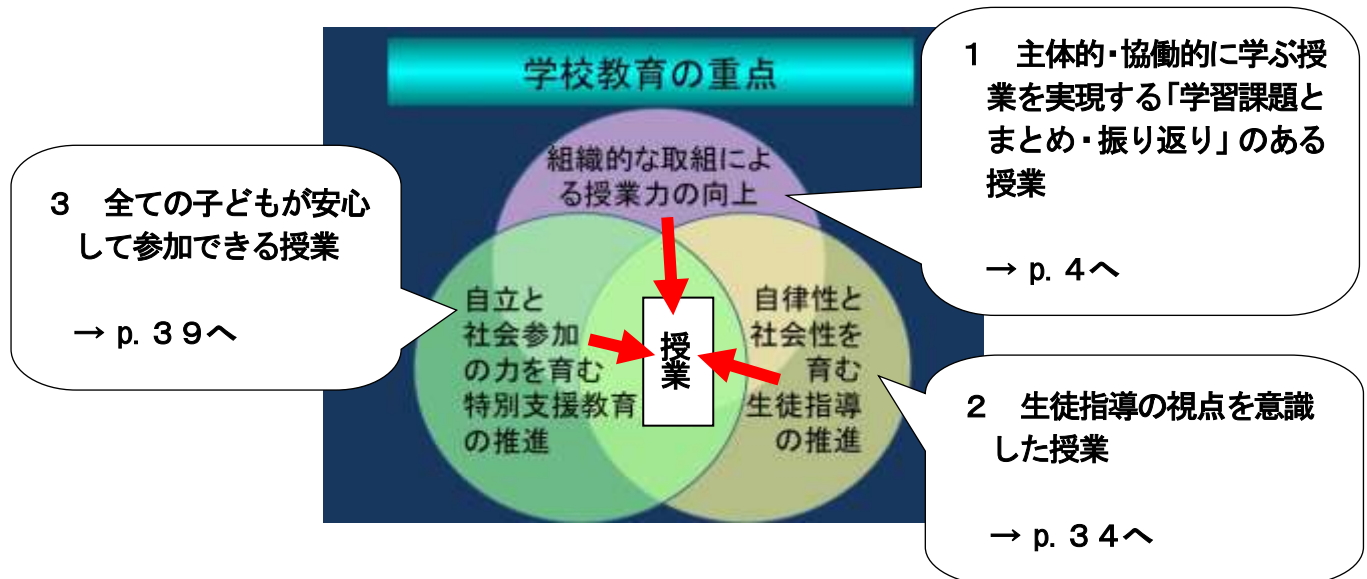
目 次

はじめに	・・・ 1
新潟市が目指す授業づくり	・・・ 3
I 主体的・協働的な学びを実現する「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業	
【授業づくり編】	
1 「学習課題」「まとめ」「振り返り」はなぜ必要か	・・・ 6
2 「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業をどのように構想するか	・・・ 7
3 学習課題をどのように設定するか	・・・ 10
4 アクティブ・ラーニングをどのように推進するか	・・・ 13
5 学習のまとめをどのように導くか	・・・ 15
6 振り返りの場をどのように設定するか	・・・ 16
7 授業のフレームワークをどのように適用するか	・・・ 18
【基礎技能編】	
1 発問	・・・ 23
2 説明・指示	・・・ 24
3 板書	・・・ 25
4 ノート指導	・・・ 27
5 指導案の書き方	・・・ 28
II 生徒指導の視点を意識した授業	
1 「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業による生徒指導	・・・ 35
2 四つの視点でみる「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業	・・・ 36
3 授業で意識し継続すべきこと	・・・ 38
III 全ての子どもが安心して参加できる授業	
1 全ての子どもが安心して参加できるための授業の視点	・・・ 40
2 合意形成に基づいた合理的配慮の実施	・・・ 42

新潟市が目指す授業づくり



新潟市の授業づくりは、学校教育の三つの重点に基づいています。



1 主体的・協働的な学びを実現する「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業

優れた学習課題がある質の高い授業は、子どもが主体的・協働的に学ぶ授業（アクティブ・ラーニング）の充実につながります。「何を学んでいくのか」「どのように学んでいくのか」「何が分かり、できるようになるのか」を自覚できるように計画的に取り組みます。

2 生徒指導の視点を意識した授業

「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業を展開することは、子どもを伸ばす四つの視点「目的意識」「自己決定」「個性・能力」「協同性」を促す授業展開になり、子ども一人一人の自律性、社会性を育成することになります。

3 全ての子どもが安心して参加できる授業

全ての子どもが安心して参加できる授業づくりを考えます。特別な支援が必要な子どもには保護者と一緒に丁寧な話し合いを行い、個別的教育支援計画を作成することで、適切な指導・支援に取り組みます。基礎的環境整備、そして合理的配慮を取り入れた授業づくりを推進することが、自立と社会参加の力を育むことにつながります。

I 主体的・協働的な学びを実現する
「学習課題とまとめ・振り返り」
のある授業

【授業づくり編】

- 1 「学習課題」「まとめ」「振り返り」はなぜ必要か . . . 6
 - 2 「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業をどのように構想するか
 - (1) 単元の構想と指導計画 . . . 7
 - (2) 本時の構想と展開 . . . 8
 - 資料1 「構想カード」の記入例 . . . 9
 - 3 学習課題をどのように設定するか
 - (1) 優れた学習課題の三つの要件 . . . 10
 - (2) 学習課題の設定における二つの視点 . . . 11
 - 4 アクティブ・ラーニングをどのように推進するか
 - (1) アクティブ・ラーニングの意義 . . . 13
 - (2) アクティブ・ラーニングの具体例 . . . 14
 - 5 学習のまとめをどのように導くか . . . 15
 - 6 振り返りの場をどのように設定するか
 - (1) 振り返りの内容 . . . 16
 - (2) 振り返りの例 . . . 16
 - (3) 留意点 . . . 17
 - 7 授業のフレームワークをどのように適用するか . . . 18
- * 【問題解決型】【技能習得型】【単元型】

1 「学習課題」「まとめ」「振り返り」はなぜ必要か

(1) 子ども自身が本時の学習内容を自覚できる。

- ・何を学んでいるのかが分かる。
- ・どのように学んでいるのかが分かる。
- ・何が分かり、できるようになったのかが分かる。



今日は、階段型の図形の面積の求め方を勉強するんだね。

切ったり動かしたりして、長方形に変形することで面積が求められるんだね。



(2) 誰にでも分かりやすい授業になる。

- ・学習の見通しがもてるので、子どもは安心し、落ち着いて学習できる。

次は、学習課題について、実験結果を基にきまりを見付けるんだね。



もう一度、実験結果について振り返るんだね。

「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業を継続すると

(3) 子どもに主体的な学習態度や学び方が身に付く。

- ・子ども自ら学習課題を設定できるようになる。
- ・子ども自ら学習課題を追究できるようになる。
- ・追究して分かったことを子ども自らまとめられるようになる。

2 「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業をどのように構想するか

(1) 単元の構想と指導計画

- 単元における目指す姿を明確にして、それを実現するための指導計画を立てます。

○ 単元目標の設定

学習指導要領に記載されている目標や内容を基に、単元で目指す姿を踏まえて具体的に設定します。

○ 評価規準の設定

『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所刊行）』などを参考に，評価規準を設定します。

評価規準は単元の目標と整合させます。目標として設定した項目は必ず評価しなければなりません。それは，目標にない項目は評価できないからです。

○ 子どもの実態把握と分析

これまでの学習で，子どもは「何を学んだのか」「どのように学んだのか」「何が分かり，できるようになっているのか」「まだ身に付いていない力は何か」など，単元に関する子どもの実態を把握し，その原因を分析します。これは，見方を変えれば，これまでの自分の指導を分析することでもあります。

○ 目標を達成するための手立ての構想

単元で扱う教材を分析し，どのような教材をどのように扱うかなど，目標達成のための手立てを考えます。手立てには次のようなものがあります。

◇教材の選定・提示…………… どのような教材をどのように提示するのか など

◇場の設定…………… どのような学習の場を設定するのか など

◇授業展開の方法…………… どのような学習課題をどのように設定していくのか など

◇アクティブ・ラーニングの組織…………… どのような言語活動を設定し，子どもをどのように関わらせていくのか など

(2) 本時の構想と展開

- 単元における本時の位置付けやねらいに合わせ、1時間の学習過程を構想します。

本時の授業を構想するポイントは五つあります。

【本時構想のポイント】

その1 本時のねらいの設定

学習指導要領解説や教科書を基に、子どもの実態を踏まえて本時のねらいを設定します。

次に、ねらいの達成に向けて、前時までの既習事項や子どもがつまづきそうなところなどを分析します。

その2 まとめの明確化

ねらいに整合したまとめを、子どもの立場で具体的にイメージして決めます。

その3 学習課題の設定

まとめと正対した学習課題を原則として、疑問形で設定します。

その4 学習課題を生み出す働き掛けの考案

「学習課題」を生み出す働き掛け（問題提示、資料提示、教材提示、事象提示、発問、活動など）を工夫します。

その5 学習課題を解決するための手立ての考案

学習課題を解決し、まとめや振り返りに至るまでの、主体的・協働的な追究活動のさせ方や働き掛けを順序立てて考えます。

★構想カードを使ってみよう★

授業を構想するときには有効なのが、「構想カード」です。指導案を書く前に、構想カードにポイントを書き込んでおきます。構想カードを基にして指導案をつくと、一貫性のある指導案になります。

書く順番を①→②→③→④→⑤とすると構造化された確かな学びの授業となります。④により学習課題をもたせることができるか、⑤により課題解決まで到達できるか、そこがポイントです。

構想カード	
ねらい	①
学習課題を生み出す働き掛け	④
学習課題	③
追究する活動や働き掛け	⑤
まとめ	②
振り返り	

資料 1 構想カードの記入例

☆単元名「面積」（5時間目／全10時間）

< 構想順 >

<ねらい>

複合図形の面積について，既習の長方形や正方形の面積の求め方を基に考えたり，図や式に表したことを説明したりすることを通して，複合図形の面積の求め方を考えることができる。

①

<学習課題を生み出す活動や教材提示>

- ・既習の長方形や正方形をフラッシュカードで提示する。
- ・既習では求められない複合図形を提示し問題意識を高める。

④

<学習課題>

- ◎ どうすれば階段の形の面積が求められるだろうか。

③

<追究する活動や働き掛け>

- ・長方形や正方形に着目させ，既習事項を使えば面積が求められそうだという見通しをもたせる。
- ・面積の求め方を図と式とを対応させてかかせる。
- ・長方形や正方形の公式が使われていることに着目させ，多様な求め方にある共通点に気付かせる。

⑤

<まとめ>

- ◇ 切ったり動かしたりして，長方形にすれば面積を求められる。

②

<振り返り>

- ・適用題を提示し，二つの方法で問題を解く。

3 学習課題をどのように設定するか

(1) 優れた学習課題の三つの要件

- 内容性、情意性、集団性の三つの要件を備えているものが、優れた学習課題です。

内容性

学習課題の求める内容が、ねらいや学習指導要領に示されている指導内容と的確に対応している。

情意性

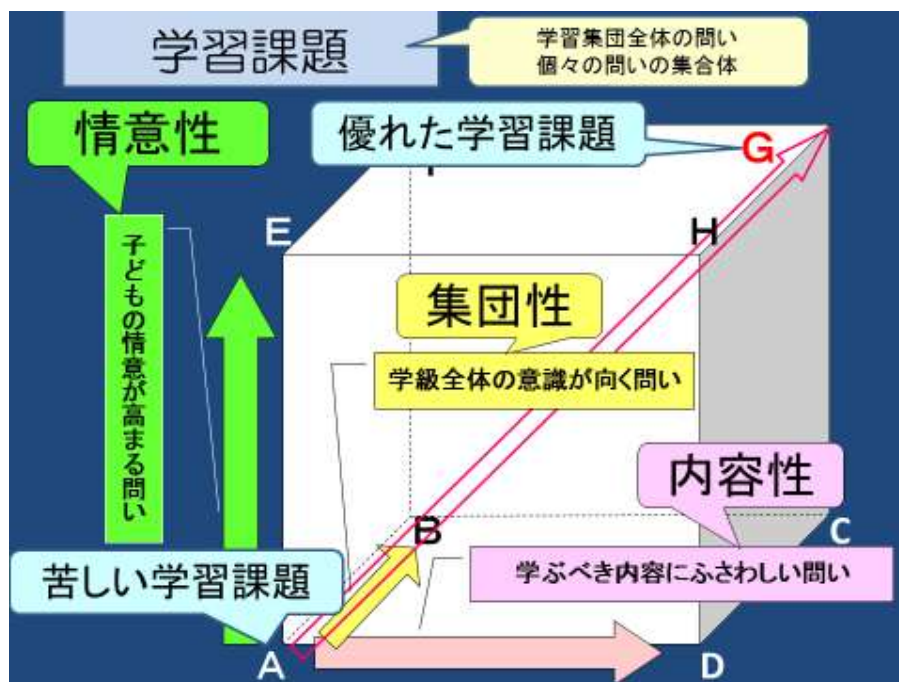
子どもの興味・関心や問題意識、必要感を基に設定されている。

集団性

一部の子どもだけでなく、学級全体が追究に向けての意欲をもっていて、子ども同士が関わる必要性がある。

優れた学習課題を設定することで、価値ある学習内容について主体的・協働的な学び、つまりアクティブ・ラーニングを展開することができます。

ただし毎時間、優れた学習課題を設定することは難しいので、まずは、学習課題を設定した授業を継続することが基本です。そして、OJTの取組として少しでも優れた学習課題になるよう努めることが大切です。



(2) 学習課題の設定における二つの視点

○ 学習課題を設定するには、次の二つの視点が大切です。

- ① “ずれ”を明らかにして問いを生み、学習課題へと発展させる働き掛けを行う。
- ② 「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業を日々行い、子どもの問いを見付ける力を高める。

① “ずれ”を明らかにして問いを生み、学習課題へと発展させる。

本時のねらい：新潟市のごみの量が減っている原因を理解することができる。

子どもの気持ち



これは、「新潟市の人口の推移」のグラフです。人口は、平成18年から変わっていませんね。これは、「新潟市のごみの排出量」のグラフです。二つのグラフを比較します。

何かなあ

先生：二つのグラフから気付いたことは何ですか？

ずれを明らかにして



太郎：確かに人口は変わってないよね。
花子：ごみも変わらないと思ったのに、平成20年にはすごく減っているよね。

先生：疑問に思うことは、ありますか？

問いを生み

情意性 集団性
が高まる

花子：人口は変わらないのにどうしてこんなに
ごみの量が減るのかな？
太郎：不思議だな。何か理由があるのかな？

知りたい

先生：みんなの疑問をまとめると？

学習課題へと
発展させる



人口は変わらないのに、ごみの量が減っているのはどうしてか。

追究

ねらいに合った（内容性）学習課題は、話し合いを通すことで、情意性と集団性が高まり、優れた学習課題になる。

② 問いを見付ける力を高める。

A組

問題解決型を継続

日頃の授業の違いによる二つの子どもの反応

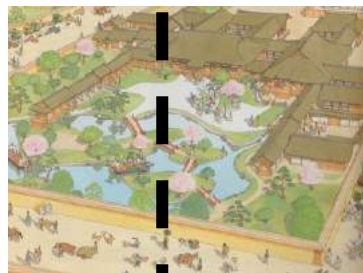
B組

一斉講義型を継続

先生：二つの絵の違いは何ですか？

貴族は、派手な生活に見えます。

武士の館の周りには田畑があります。



何を言え
ばいいの
かな？

いつもは
先生が説
明してく
れるのに

シーン……

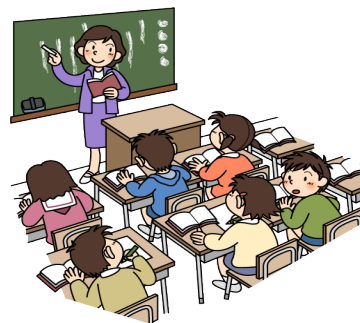


子どもの反応の違いは日頃の授業の違いによります。



問題解決型

いつも子どもが自分たちで学習課題を見付け、自分たちで解決できた達成感を味わう学習を繰り返すことで問いを見付ける力が付きます。



一斉講義型

いつも教師が講義する授業に慣れている子どもは、教師の説明を待つ、受け身の学びが日常になり、問いを見付けようとしません。

日頃から、「学習課題とまとめ」のある授業をやるか、やらないかがポイント

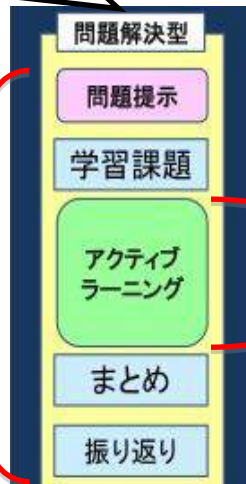
4 アクティブ・ラーニングをどのように推進するか

(1) アクティブ・ラーニングの意義

アクティブ・ラーニングは、一斉講義型の学習ではなく、子どもを授業に主体的に参加させ、深く考えさせる問題解決型の学習の事です。

アクティブ・ラーニングは、「学習課題とまとめ」を含む問題解決型の学習活動全体を指します。

その問題解決型の学習活動の中で、子どもが最も主体的・協働的に追究する学習場面が学習課題の設定からまとめの間にあります。



アクティブ・ラーニング

たとえば

ホワイトボードを覗いて話し合う
生徒が質問する
レポートにまとめる

子どもが主体的・協働的に学ぶ

アクティブ・ラーニングについて、新潟市では、特に、ファシリテーション、ペア学習、グループワーク等の協働的に学ぶ場面に着目します。

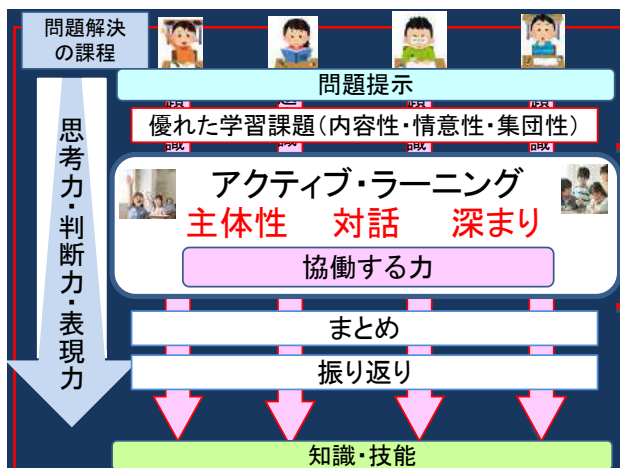
なぜアクティブ・ラーニングが必要なのでしょう？



知識は、容易に手に入る時代になりました。これからは、知識を使って仲間と協力して問題を解決する力を身に付ける必要があります。

優れた学習課題を設定することで、児童生徒の**主体性**が発揮され、**対話**によって協働性が生まれ、学習内容の理解が**深ま**ります。

優れた学習課題を基に、アクティブ・ラーニングを繰り返すことで思考力・判断力・表現力を高めることができます。



これまで、アクティブ・ラーニングは、学ぶ手段と考えていました。しかし、これからは、学ぶ目的になり、協働する力を身に付けるために、必要不可欠になります。

アクティブ・ラーニングが成立する要件には、**主体性・対話・深まり**が、存在しています。



(2) アクティブ・ラーニングの具体例

社会（小学校4年生「ごみはどこへ」）

<問題提示>

- ・グラフ「新潟市の人口の推移」とグラフ「新潟市のごみの排出量の推移」の二つを提示し、比べさせる。

◎学習課題：人口が変わらないのに、ごみの量が減っているのはどうしてか？

アクティブ・ラーニングによる課題の追究と解決

① 一人一人が付箋に自分の考えを書き出す。

既習事項
の想起

市民がごみを出さない
ようになった。

ごみのきまりを守る
人が増えた。

きまりを守ってリサイ
クルが進んだ。

② グループで考えを出し合い、考えを整理する。



③ グループで出された考えを学級全体で話し合う。

対話

考え ア

新潟市のごみを出すきまりが厳しくなったから。

考え イ

ごみのきまりを守る人が多くなったから。

考え ウ

多くの人がきまりを守ってリサイクルするようになったから。



三つの考えに共通するのは「ごみのきまり」だ。どんなきまりがあるか調べてみよう。

10 品目に細かく分別されているなあ。

ごみをどのように出すかも示されている。

リサイクル品もしっかり示されている。

深まり

市がごみの分別方法や出し方を細かく決めたことにより、ごみを出すときの市民の意識が高まり、多くの人のリサイクルに取り組んだから、ごみの量が減っているんだね。



思考力・判断力・表現力の向上

主体性・協働性の発揮

5 学習のまとめをどのように導くか

- 全員が、何を学んだのかを確認させるために、追究過程で学んだことを、子どもたちから引き出し、学習課題に正対した答えの形で教師がまとめます。



①今日は、階段の形の面積はどうやって求めればいいのかについて、勉強しました。同じ階段の形でも、いろいろな考え方があることが分かりましたね。
②この学習課題に対するまとめはどのように言えるでしょうか？四つのやり方で、共通していることを見つけて、まとめをしましょう。

切ったりずらしたりして、長方形に直してから、たて×よこで計算すればいい、がいいと思います。



○月○日(○曜日) 面積

次の図形の面積は何cm²でしょうか。

・長方形ではない。
・長方形が2つつながっている。
・「長ぐつ」「かいだん」に見える。

学習課題 どうすれば階段の形の面積が求められるか。

2つに分ける。
線を引く。
長方形にする。

正対 しているところ

まとめ 切ったり動かしたりして、長方形にすれば面積が求められる。

■かけ算を使って面積を求めている。
■長方形にしている。

あ: 2つの長方形に分ける。 たて 横

① $5 \times 3 = 15$
② $3 \times 4 = 12$
①+②
 $15 + 12 = 27$

A 27cm²

い: 2つの長方形に分ける。

① $2 \times 3 = 6$
② $3 \times 7 = 21$
①+②
 $6 + 21 = 27$

A 27cm²

う: 動かして長方形にする。

①+②
 $3 \times 9 = 27$

A 27cm²

え: 長方形から出した分をひく。

① $5 \times 7 = 35$
② $2 \times 4 = 8$
①-②
 $35 - 8 = 27$

A 27cm²

学習内容を整理したもの

- 見方
- 考え方
- 知識・技能のポイントなど

まとめの引き出し方の例

Step 1: 何について学んでいたのかを確認する。

今日は、学習課題『○○だろうか?』に対して、○○などの活動をしました。この問いに対するまとめは、どのようなことが言えるでしょうか。

Step 2: 学んだことや明らかになったことを引き出す

例

追究(活動)してきた結果、

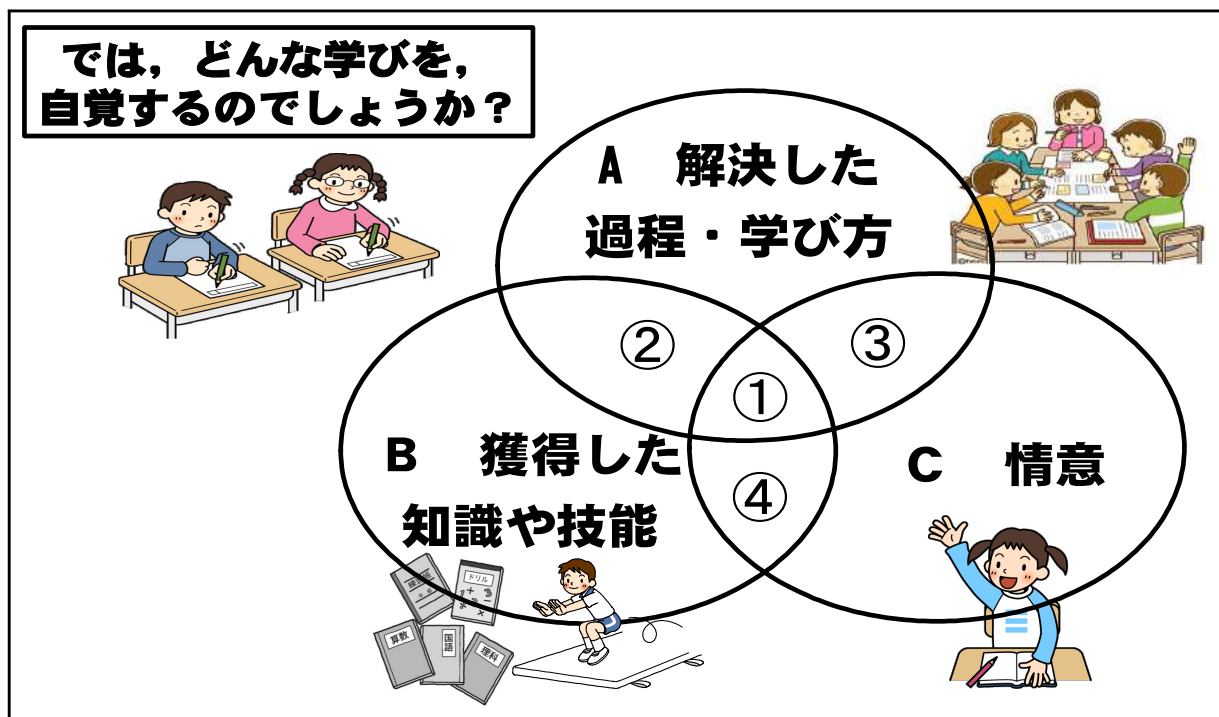
- ① 共通していることは何ですか?
- ② 全てのことに関連していることは何だと言えますか?
- ③ どのようなきまりや法則があると言えますか?
- ④ どのようにすれば問題が解決しやすくなると言えますか?
- ⑤ 最終的な意見や考えを書きなさい。



6 振り返りの場をどのように設定するか

○ 学びを自覚させるために、授業の終末や単元の節目の時間に、学習過程や自己の変容を子どもが振り返る場を計画的に設定します。

(1) 振り返りの内容



- ◇ 「振り返り」は、ABCが単独で行われるよりも、それぞれを含んだ形で行われることが多いです。ねらいに合わせて「振り返り」の重点を決めましょう。
- ◇ 特にAを含んだ「振り返り」で身に付けた学びは、様々な場面で活用できる力を身に付けることにつながります。
- ◇ また、「振り返り」は、発達段階によっても違ってきます。子どもの実態に即して、設定していきます。

(2) 振り返りの例（上記の図①についてのみ例示）

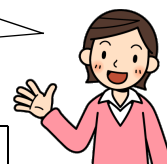
例1 国語（小学校1年生「サラダでげんき」）

どんな読み方をしたら、お話がよくわかりましたか？



はじめは、どんなお話がよくわからなかったけど、お話に出てくる一人一人のしたことをじゅんばんにたしかめながらよんだら、^Aそれぞれがおしえてくれたことがわかって、^Bおもしろかったです。^C

どんなお話がよくわかるようにするには、どうすればいいのかよくわかりましたね！



例2 音楽（小学校6年生「豊かな歌声をひびかせよう」）

今日の学習で、うまくなったことはどんなところですか。また、次の時間どんなことに気を付けるともっとよくなるか書きましょう。



グループでお互いの歌い方を振り返ったときに、おなかに力を入れたり、抜いたりしたら、はずむかんじで歌えました。次の時間は、なめらかに歌う部分をどうすればいいのかを考えたいです。

みんなで意見を出しあって、いろいろな方法をためしていましたね。他の班のお友達にも紹介してあげようね。



例3 社会（中学校2年生「武士の台頭と鎌倉幕府」）

源頼朝は、なぜ鎌倉に幕府を開いたのか、分かったことを詳しく説明しなさい。また、なぜそう考えたのか、仲間との交流などを振り返ってまとめなさい。最後に感想を書きなさい。



鎌倉は源氏ゆかりの地であり、頼朝は公家から離れて武家政権を確立したいと考え鎌倉に幕府を開いた。

友達と協力して、前の時代との違いや時代背景など様々な観点から資料を収集したことで、理由を整理することができた。

cこれからは、一つの見方だけではなく、様々な見方から考えたり、友達の意見を聞いたりしていきたいです。

これからの学習でも役立ちそうな考え方ですね。次の時間、みんなの前で発表してくださいね！



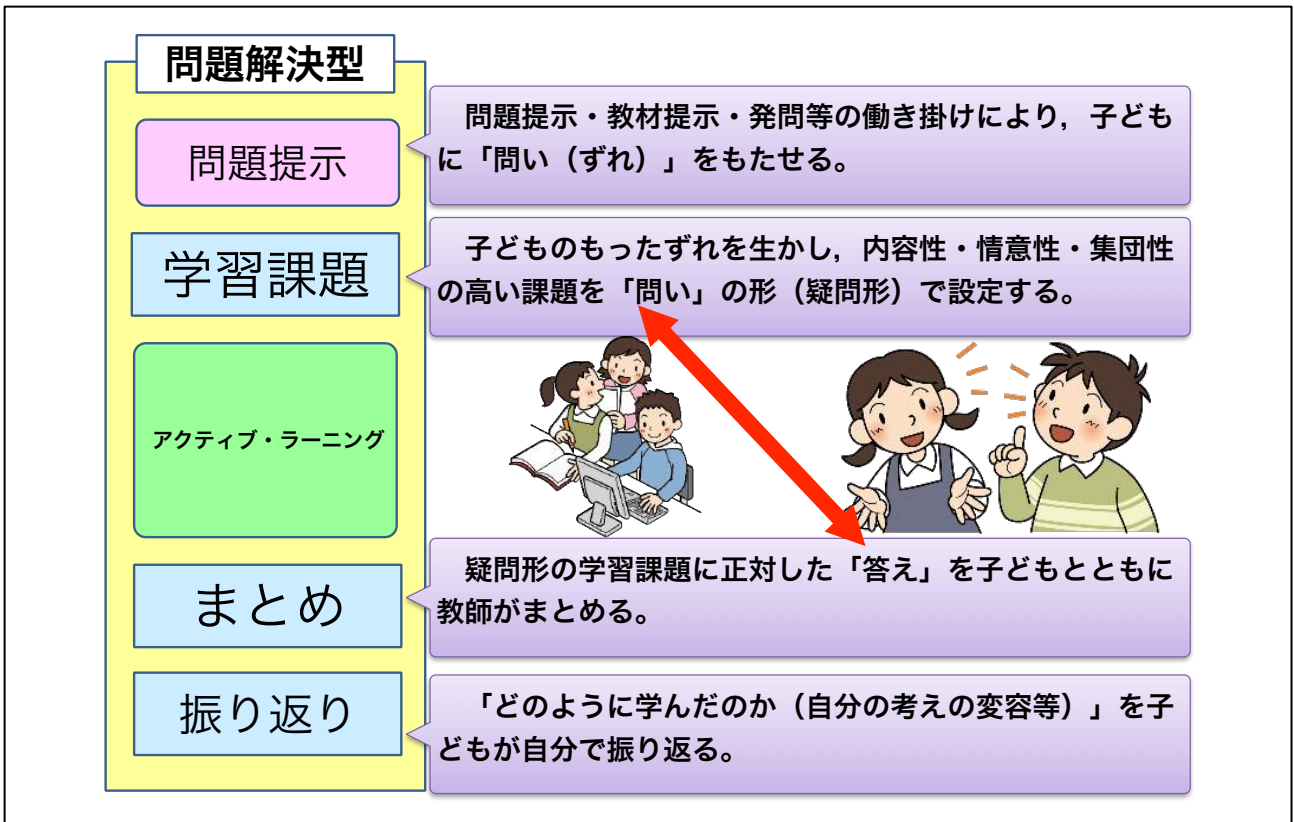
（3）留意点

- ◇ 書かせたことに対して、教師からのコメントで価値付けたり、問い掛けたりして「何が分かり、できるようになったのか」を引き出すように指導しましょう。
- ◇ よい振り返りは、学級で紹介し、モデルとなる「振り返り」をイメージさせましょう。
- ◇ キーワードや話型、スケールを提示するなど、「振り返り」の目的や意図に沿うように工夫しましょう。
- ◇ 「振り返り」の場面は、適用題などをさせて「評価」の場面として位置付けることもあります。また、口頭で行うこともあります。

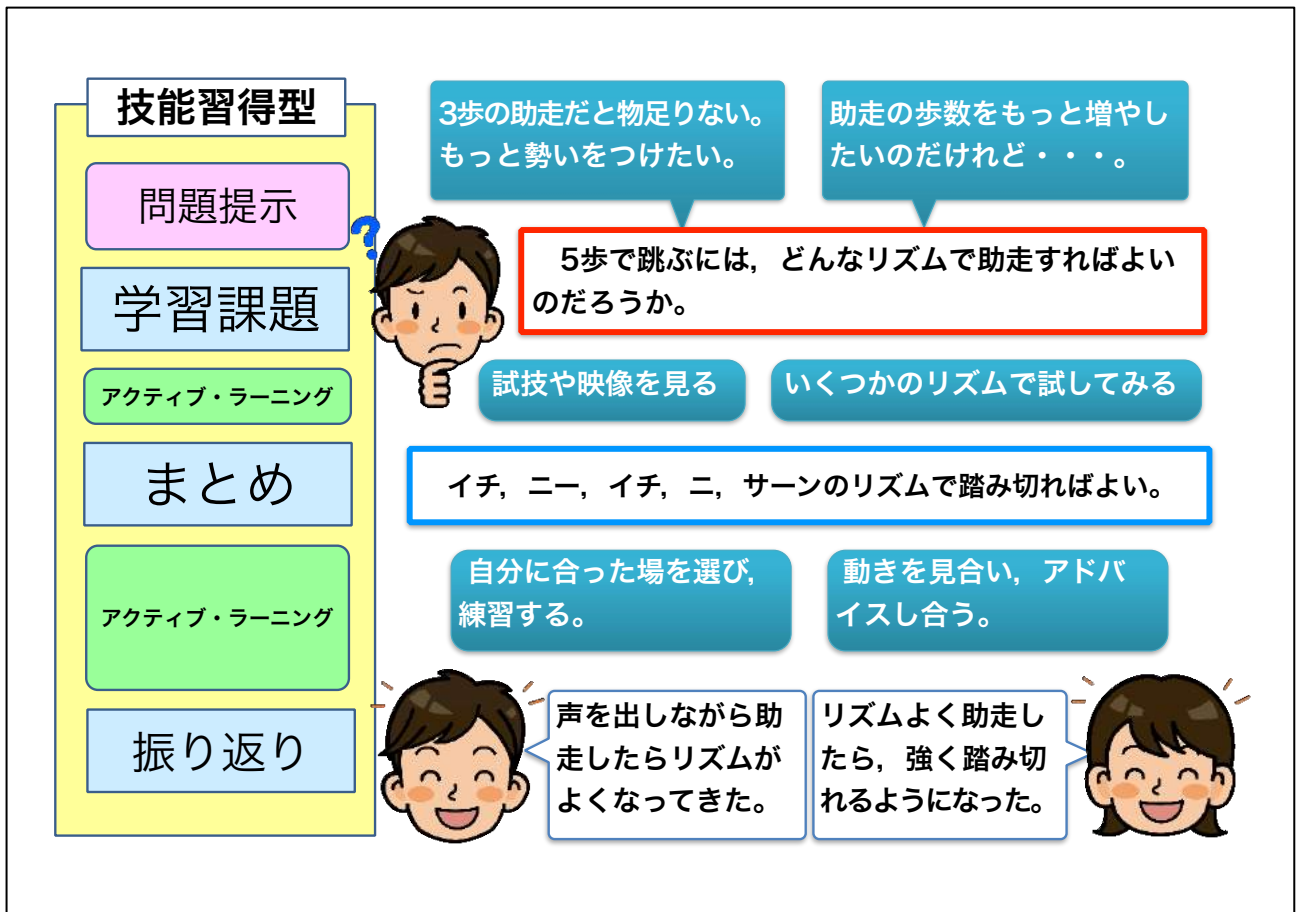
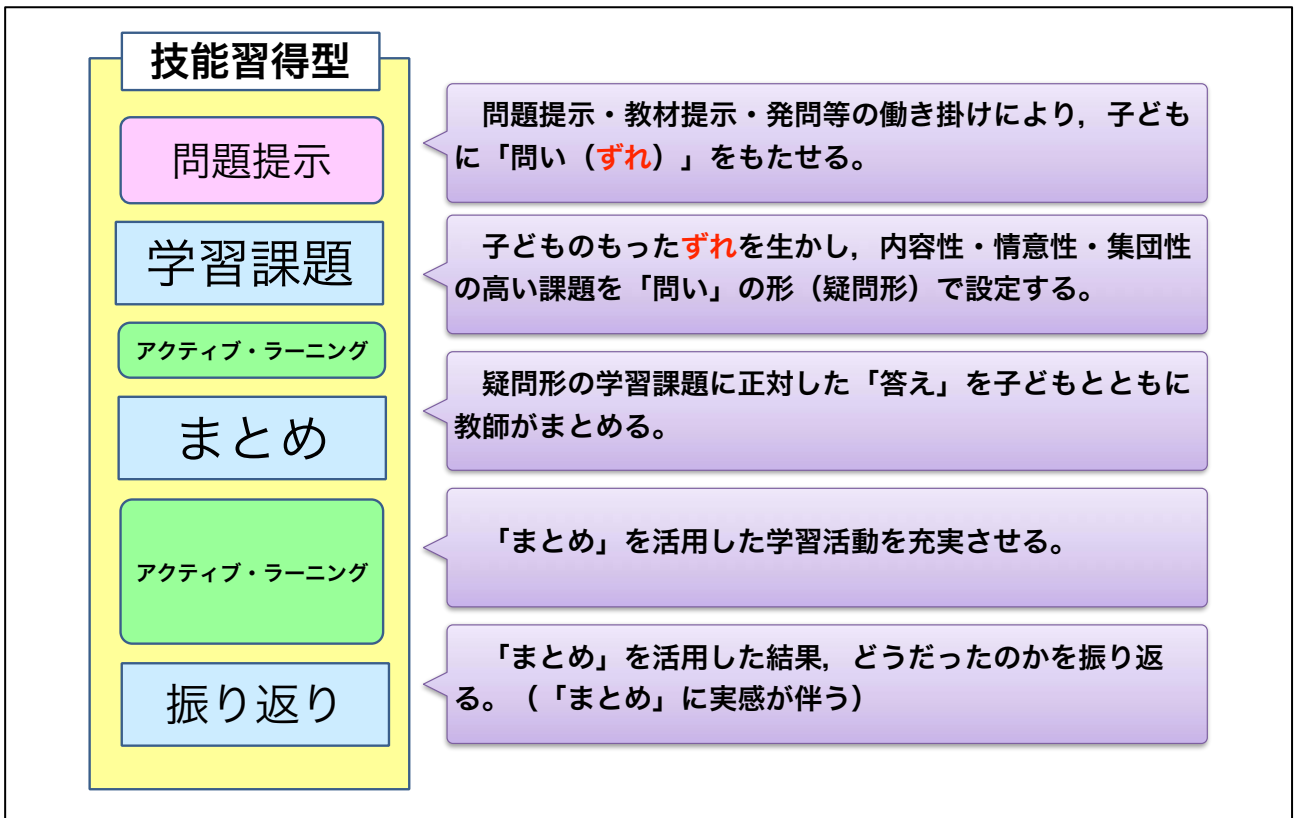
7 授業のフレームワークをどのように適用するか

◎ 教科・領域の特性や本時のねらいに合わせ、適切なフレームワークを弾力的に適用します。

【問題解決型のフレームワーク】（全ての授業の基本形）

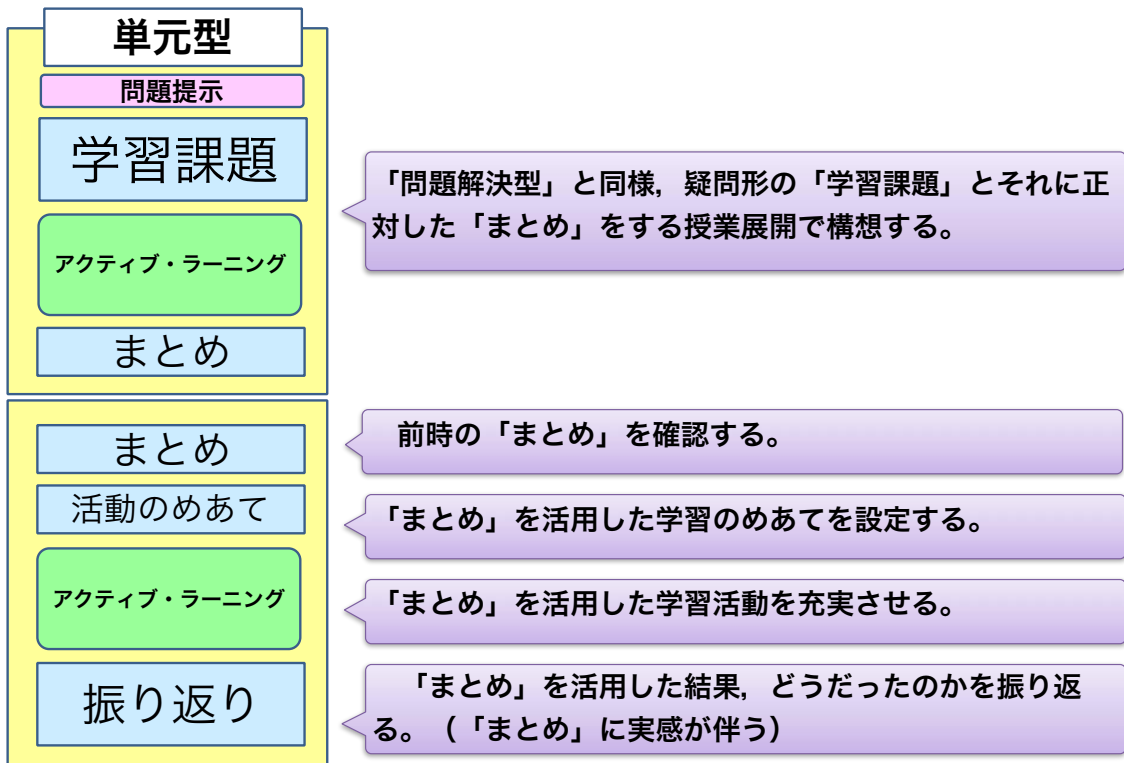


【技能習得型のフレームワーク】（「～できる」を授業のねらいとして設定する場合）

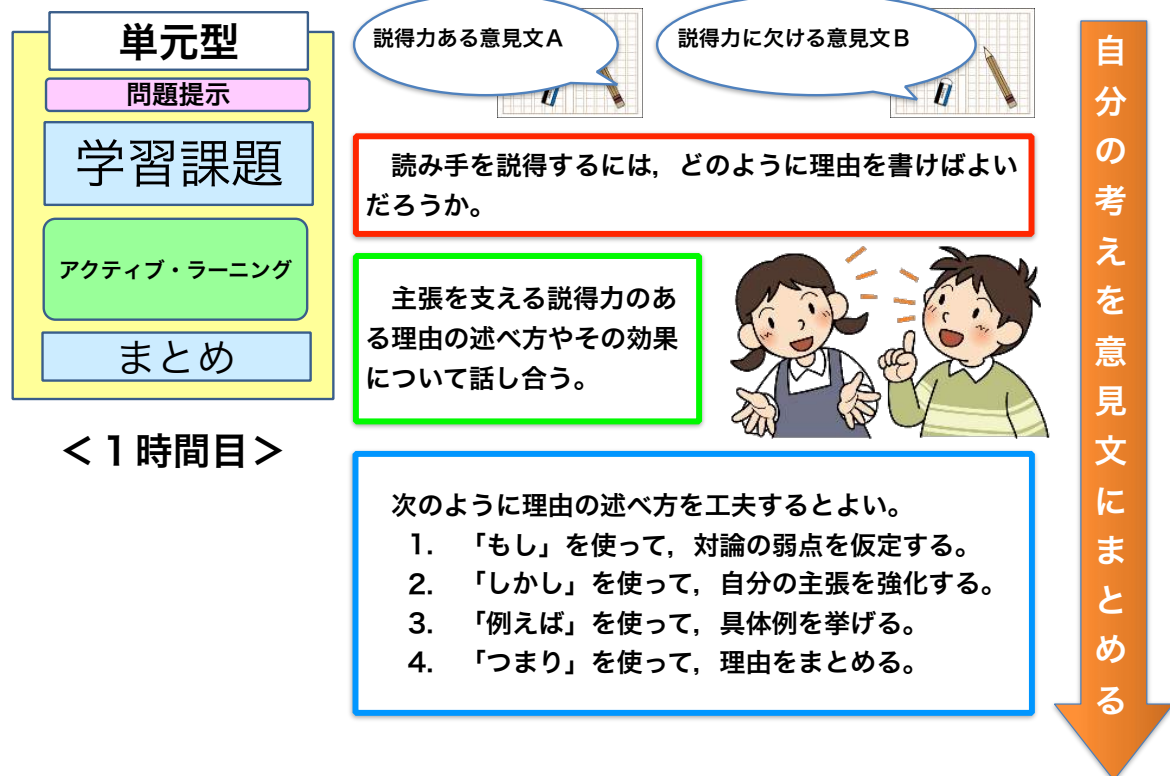


【単元型のフレームワーク】（「学習課題」から「まとめ」「振り返り」までを複数時間で構成する場合）

2時間構成の単元例



2時間構成の単元例



< 1時間目 >

2時間構成の単元例

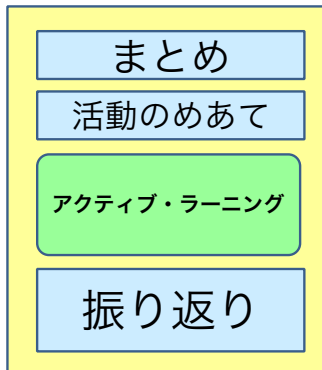


次のように理由の述べ方を工夫するとよい。

1. 「もし」を使って、対論の弱点を仮定する。
2. 「しかし」を使って、自分の主張を強化する。
3. 「例えば」を使って、具体例を挙げる。
4. 「つまり」を使って、理由をまとめる。

理由の述べ方を工夫して、説得力のある意見文を書こう。

< 2時間目 >



理由の述べ方を工夫して、自分の考えを意見文にまとめる。

書いた意見文を読み合い、相互評価する。



最初は、理由の書き方が分からなくて、一文しか理由を書けなかったけれど、四つのつなぎ言葉を使ったら、理由を詳しく書くことができた。

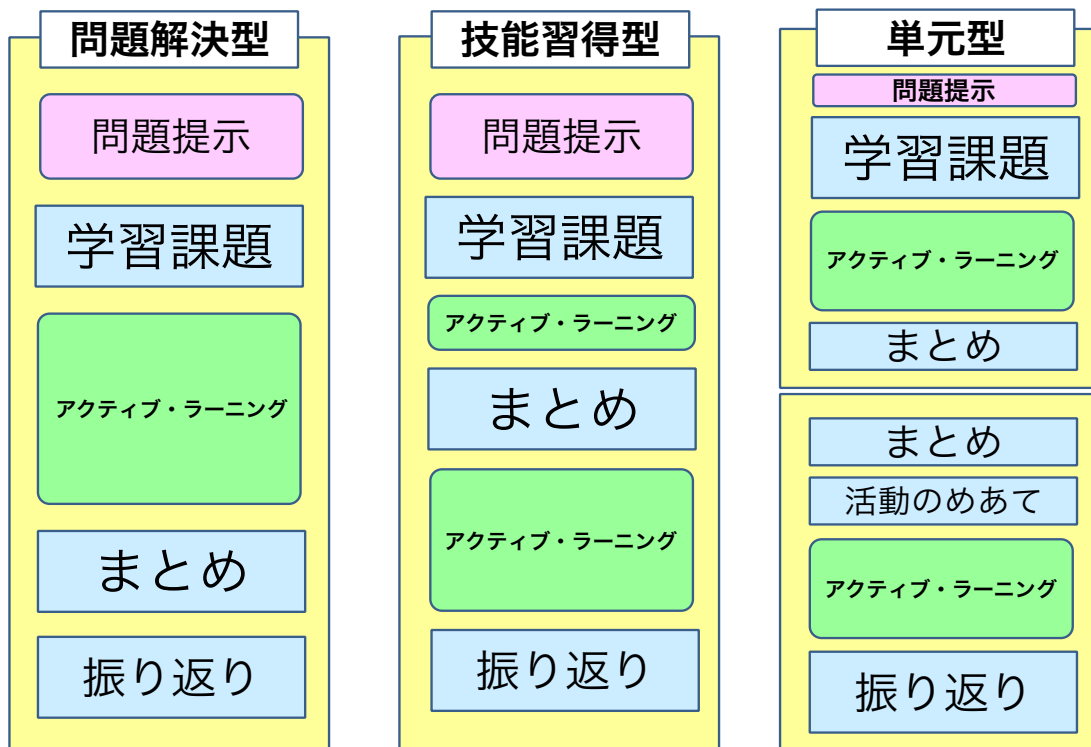


最初は、友達に分かってもらえなかったけれど、四つのつなぎ言葉を使って理由を書いたら、自分の考えを納得してもらえた。

自分の考えを意見文にまとめる

- どのフレームワークで授業を展開する場合でも、ねらい、学習課題、まとめの三つを整合させ、対応する働き掛けを構成することが大切です。

「学習課題」「まとめ」「振り返り」のある授業のフレームワーク



【基礎技能編】

1	発問	・・・23
2	説明・指示	
	(1) 端的な説明や指示とは	・・・24
	(2) 効果的な伝え方のポイントとテクニック	
3	板書	
	(1) 構造的な板書にするための板書計画	・・・25
	(2) 分かりやすい板書の要件	・・・26
	(3) その他の工夫	・・・26
4	ノート指導	
	(1) 学びの過程が分かるノートにするために	・・・27
	(2) ノート指導のポイント	・・・27
5	指導案の書き方	
	(1) 指導案の形式・項目	・・・28
	(2) 指導案の構想	・・・29
	(3) 指導案の完成	・・・30
	(4) 指導案（細案）作成の留意点	・・・31

1 発問

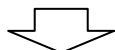
- 子どもの活発な思考を促すように、明快に分かりやすく問います。

子どもの思考を促す，三つの発問の仕方

【ア 子どもの知覚に働き掛ける発問】

- ① 考えさせたいことを直接問うのではなく，知覚に働き掛けて間接的に問うことで，子どもの思考を活性化させる。

「バスの運転手さんは，どんな仕事をしているのでしょうか。」



「バスの運転手さんは，運転しているときにどこを見ているのでしょうか。」

【イ 子どもに新たな気づきを促し発見させる発問】

- ① 既習と反することを投げ掛けてゆさぶることで，新たな気づきや疑問を生み出す。

「鉄は電気を通すのでしたね。（塗料のぬってある鉄の缶を取り出す。）

あれ？つきませんね。なぜつかないのでしょうか。」

- ② 一部の子どもの疑問やつまずきに共感し，それについて全員で考えることで新たな気づきを生み出す。

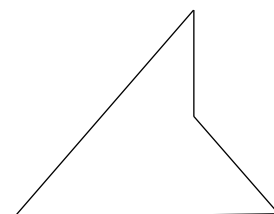
「Aさんの言葉に付け足しのある人はいますか。」

「Bさんの考えていることを説明できますか。」

【ウ 子どもに選択させて矛盾や対立を生む発問】

- ① 二者択一の問題を示し，問いを生み出す。

「この形は，三角形と四角形のどちらですか。」



- ② 考え方の共通点や相違点を整理したり，根拠や微妙な違いなどを子どもに問い返したりして，思考を更に促す。

「二つの考えで違うところ，同じところは何ですか。」

「あなたが〇〇ではなく，～と考えたのはなぜですか。」

「質問」と「発問」とは全く違います。

「質問」は自分が何かを知りたいときに，相手に答えを聞こうと尋ねる問いです。

「発問」は，教師が子どもの思考を促しながら新たな気づきに導くための問いです。

2 説明・指示

○ 子どもの活動の目的と方法を明確にするために、端的な説明や指示をします。

(1) 端的な説明や指示とは

① 説明

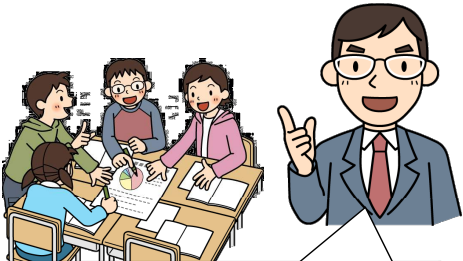
課題解決の手順・作業の方法など、子どもたちがスムーズに課題解決に向かって思考するため、あるいは子どもの理解が不十分な時に理解を補助するため、必要不可欠な説明を最小限に行います。

② 指示

子どもの活動をスムーズにするために具体的な動きを伝えます。

☆ 望ましくない指示・説明

A

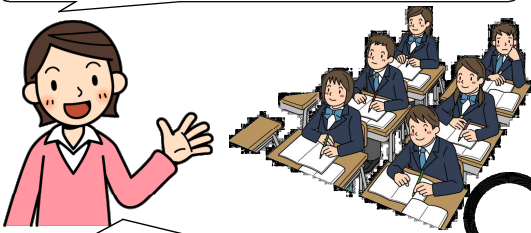


(大きな声で) 班での意見がまとまったら、ここに置いてあるペンを3本と模造紙1枚を持って行って、班の意見とその理由を模造紙に書いて、その紙を…してください。もう一回言うよ…

☆ 望ましい指示・説明

B

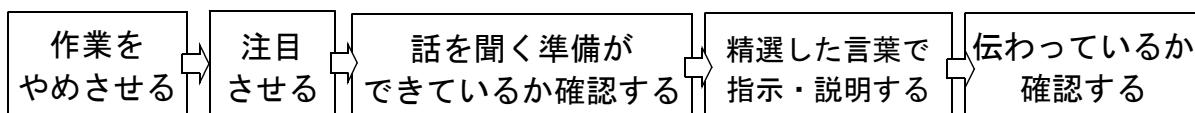
一旦書くのをやめて、黒板に注目してください。(しばらく待つ)



(全員が注目していることを確認してから) それでは、これからの活動について説明をします…

(2) 効果的な伝え方のポイント&テクニック

① ポイント



② テクニック

◇ 声に変化をもたせる

【スピード・抑揚・間・大きさ】

◇ 視覚的な情報の活用

【資料や写真を関連させる。板書やICT機器などで文字や図などを提示する。】

◇ 非言語の活用

【表情・ジェスチャーをつけたり、アイコンタクトで伝えたりする。】

どんなに課題や活動、教材が適切であっても、指示や説明が全ての子どもに伝わらなければ、ねらいの達成が難しくなってしまいますね！



3 板書

○ 板書は、学びの足跡です。

(1) 構造的な板書にするための板書計画

あらかじめ学習課題や子どもの考え、学習のまとめをどこに書いたら分かりやすいか、という点から計画をします。※①②③④は<板書計画><実際の板書>の番号に対応

- ◇ 「①教材」「②学習課題」「④まとめ」を明らかにします。
- ◇ 「②学習課題」は、基本型として「～だろうか」など疑問形で記します。
- ◇ 「③学習内容や子どもの考え」は、それぞれを関わせるように構造化したり、考えを分類・整理したりして板書します。
- ◇ 「④学習のまとめ」は、学習課題と正対するように書きます。
- ◇ 板書のどこをノートに写させるか、あらかじめ計画します。学年に応じて、子どものノートのマスの数に合わせてたり、補助黒板を使ったりすることも有効です。
- ◇ いつ見ても、学習の進み方が分かるように書くことが大切です。授業終了時には、1時間の学習の流れが確認できるような板書を目指しましょう。

<板書計画>の例

枠外 授業を実際に行う際のメモ

- ◇ 本時のねらい
- ◇ 学習活動
- ◇ 教材の提示、学習課題設定の仕方、発問
- ◇ ノートに書かせる部分、書かせ方の構想メモ など

枠内 板書する内容

- ① 教材（問題）
- ② 学習課題
- ③ 学習内容や子どもの考え
- ④ まとめ

など

本時のねらい
 三角形の面積について既習の図形(長方形・平行四辺形)に変形したり考え方の共通点や相違点を話し合ったりする活動を通して、倍積や半積で変形した面積の方法を理解することができる。

① 復習として四角形の面積の問題を提示する。
 ↓
 三角形の問題を提示
 (紙に印刷して配布)

② の困り感を出させる。
 「どうしたら?」という課題意識を高める。→<学習課題>

③ <見通し> 既習の平行四辺形の際に行った、図形の変形の仕方を想起させる。

④ 図
 ⑤ 考え
 ⑥ 式と答え
 ⑦ ネーミング

* 4名指名
 ニンポイントボードに考えを書かせ、全体の前で発表させる。

10/25 図形の面積
 問題 次の三角形の面積を①求めましょう。

学習課題
 三角形の面積②はどうやって求めればよいだろうか。
 (切り変える) (切る動かす)

まとめ
 長方形や④四角形に変形して求めればよい。

⑦ ① 切る
 ② つける
 ③ 高さ半分の長方形
 $(4 \div 2) \times 6 = 12$
 $A 12 \text{ cm}^2$

④ ① 切る
 ② つける
 ③ 高さ半分の平行四辺形
 $6 \times (4 \div 2) = 12$
 $A 12 \text{ cm}^2$

⑤ ① 三角形を2つに分ける
 ② 長方形にする
 ③ 1つ分にする
 $4 \times 6 \div 2 = 12$
 $A 12 \text{ cm}^2$

⑥ ① 同じ三角形を2つにする
 ② 平行四辺形にする
 ③ 1つ分にする
 $6 \times 4 \div 2 = 12$
 $A 12 \text{ cm}^2$

<実際の板書>

10/25 図形の面積

0 次の三角形の面積を求めよう

4cm

①

学習課題 ②
三角形の面積は
どう求めればよいだろうか

③

④ まとめ ④
長方形や平行四辺形に
変形して求めよう

① 教材(問題) ② 学習課題 ③ 子どもの考え ④ まとめ

(2) 分かりやすい板書の要件

- ① どの子どもの場所からも、読みやすい、見やすい。
- ② 一番後ろの席の子どもでもよく見える大きさの文字で書く。
- ③ 1時間の学習内容や子どもの追究の様子が構造的に整理されている。
- ④ 色分けにルールがある。

<色分けの例>

- ・学習課題：赤枠
- ・ま と め：青枠
- ・重要語句：色や下線などで強調
- ・補足説明：黄色文字 など

(3) その他の工夫

- ① マグネット付きホワイトボードを使うと移動や保存が容易なので、子どもの考えを分類・整理するときに便利です。
- ② 実物投影機，電子黒板，大型テレビ等のICT機器を併用すると，教材などを子どもにより分かりやすく提示することができます。

4 ノート指導

○ 板書と対応したノートで、子ども自身の学びの足跡を残します。

(1) 学びの過程が分かるノートにするために

学年や教科に応じて、何を、どこに書くのか、ノートのルールを学習集団で決めておきます。さらに、ルールは全校や教科部でそろえてあると効果的です。

The notebook page shows a lesson on the area of a triangle. It includes a date (May 20th), a problem statement, a diagram of a triangle with a height of 4cm and a base of 6cm, and a calculation: $6 \times 4 = 24$, $24 \div 2 = 12$, resulting in an area of 12 cm. A second method is shown where the triangle is transformed into a parallelogram with a base of 6cm and a height of 3cm, leading to the same area calculation: $6 \times 3 = 18$, $18 \div 2 = 9$, resulting in an area of 9 cm. The page is annotated with callouts explaining the purpose of each section.

学習日・ページ (Date/Page): 5月20日(水) 三角形の面積 p.25

教材(問題) (Text/Problem): 次の三角形の面積を求めましょう。

友達の考えやその解説 (Friend's thought/explanation): <Bさんの考え> 三角形の高さを半分にしたところまで切ると、移動させる。平行四辺形 $6 \times 2 = 12 \text{ cm}$

<学習課題> (Learning task): ◎を付けたら、四角囲みさせたりするなど、何を学習したのか分かるようにします。

<自分の考え> (My thought): 必ず書かせるようにします。思考する時間の確保につながります。

<振り返り> (Reflection): 学習過程や自己の変容が分かるように書かせましょう。適用題をさせることもあります。

<まとめ> (Summary): ◎を付けたら、四角囲みさせたりするなど、何が明らかになったのかを分かるようにします。

(2) ノート指導のポイント

① 年度はじめに、見本を示しながらノートガイダンスを実施しましょう。

◇ 基本的な事項として、定規や下敷きを使うこと、日付や学習課題、まとめの書き方などを全体で確認しましょう。

◇ 確認したことが守られているか、隣同士や教師のチェックを忘れずに。

② 指示を具体的にしましょう。

例) ◇ 「定規を使って、文の下にまっすぐ横の線を引きなさい。」

◇ 「先生が黒板に書く速さと同じ速さで書きましょう。」

◇ 「3行以上書きましょう。」

③ 教師の点検・評価と子どものノートの質は比例します。

◇ ノートの点検や評価は、個別対話と個別指導の場です。

◇ よいノートを紹介して、どんどんまねさせましょう。

5 指導案の書き方

(1) 指導案の形式・項目

○ 指導案には略案と細案があります。

略案	本時のねらい，展開，評価を中心にまとめた指導案
細案	本時のねらい，展開，評価に加えて，本時の構想，単元全体の構想，指導計画（含む評価計画）などを記述した指導案

略案，細案といっても，用途や役割によって記述する形式や項目が変わります。

<指導案の形式>

指導案の形式は，学校によって異なる場合があります。新潟市教育委員会が例示しているのは次のとおりです。

略 案	細 案
1 単元名 2 単元の見目標 3 単元の見評価規準	1 単元名 2 単元の見目標 3 単元の見評価規準 4 単元と指導の構想 (1) 単元と児童（生徒） (2) 指導の構想
4 単元の見指導計画 5 本時の計画 (1) ねらい (2) 展開 (3) 評価	5 単元の見指導計画 6 本時の計画 (1) ねらい (2) 構想 (3) 展開 (4) 評価 7 参考文献・資料

※上の項目の「単元」という言葉は，音楽，家庭は「題材」，学級活動は「活動」または「題材」，道徳は「主題」となります。

※同じ項目でも，指導案の形式によって書き方の程度が変わります。それぞれの項目について具体的にどのように記述するかについては，「指導案作成の留意点」（P 3 1）を参照してください。

(2) 指導案の構想

- 単元の構想と本時の構想ができれば、指導案の形式に合わせて指導案を書いてみましょう。

単元の構想と構想カードの内容を指導案の項目に当てはめてみましょう。

単元の構想

- 単元の目標を決める。
- 評価規準を決める。
- 子どもの実態を調べる。
- 目標を達成するための手立てを考える。

構想カード (p. 9 参照)

ねらい
学習課題を生み出す活動や教材提示
学習課題
追究する活動や働き掛け
まとめ
振り返り

○年○組 ○○科学習指導案

○○年○○月○○日
指導者 ○○ ○○

- 1 単元名
- 2 単元の目標
- 3 単元の評価規準
- 4 単元と指導の構想
(1) 単元と児童 (生徒)
(2) 指導の構想
- 5 単元の指導計画
- 6 本時の計画
(1) ねらい
(2) 構想
(3) 展開
- (4) 評価
- 7 参考文献・資料

(3) 指導案の完成

○ いよいよ指導案を仕上げる段階です。

STEP 1 単元の構想，本時の構想を基に中心となる部分を記述する。

前ページを参考に，単元の構想，本時の構想を基に指導案を書き始めましょう。そのとき，前後の文章，特に授業者としての考え方に一貫性があるかどうかを確認しながら書くことが大切です。

STEP 2 その他の項目を記述する。

単元の指導計画，展開の指示や子どもの反応，参考文献などを書き込んでいきましょう。展開については，授業全体の流れを頭の中で構想しながら書きましょう。

STEP 3 全体をもう一回読み，前後の内容の整合性を確認する。

一通り完成したら，全体をもう一回読み込み，前後の内容が整合しているかを確認しましょう。指導案の前半と後半とで主張がずれていたり，使っている語句が変わっていたり（例えば，児童→子ども）しないように点検しましょう。

STEP 4 他の人に読んでもらい，修正する。

他の先生に指導案を読んでもらうことは，独りよがりの考えや表現を見付け，読み手に分かりやすい文章とするためにとても有効です。

【どうやって番号・記号を付けるか】

指導案だけでなく，文書に番号を付けるときは次のような基本形があります。

- | | | |
|-----|-------------|--------------------------|
| I | ○○ゴシック体○○ | (I, IIの番号を振らないときもあります。) |
| 1 | ○○○ゴシック体○○○ | (大項目をゴシック体にすると見やすくなります。) |
| (1) | ○○○明朝体○○○ | (中項目以下は明朝体にします。) |
| ① | ○○○○明朝体○○○ | (順序性がない場合ア, イ…などと書きます。) |

【句読点はどうするか】

一般的な文書（横書き）の場合，句点は「。」，読点は「，」を使います。縦書きの場合は，読点に「、」を使います。

(4) 指導案(細案)作成の留意点

新潟市立〇〇小(中・中等教育・特別支援)学校

第〇学年〇組 〇〇科 学習指導案

平成〇年〇月〇日(曜)第〇校時
(〇:〇〇~〇:〇〇)

指導者 教諭 〇 〇 〇 〇

1 単元名 「 〇 〇 〇 〇 〇 〇 」

- ・単元名を記述します。
- ・単元が大きな教科の場合、小単元で記述することも可能です。

2 単元の目標

- 〇【関心・意欲・態度】
- 〇【思考・判断・表現】
- 〇【技能】
- 〇【知識・理解】

- ・児童生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に記載されている目標や内容を基に単元で目指す姿を観点ごとに設定します。上記の【】内の観点名は教科によって異なります。

3 単元の評価規準(評価の観点の項目名は、教科によって記述が異なります。)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・	・	・	・

- ・単元の評価規準は、学習を通して身に付けるべき資質や能力を明確にし、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(平成23年11月)」を参考にしながら、各観点に即して設定します。(国語科は5観点から単元の目標に対応する観点について設定します。)
- ・各観点の評価規準の数は、1, 2程度に精選しましょう。文末は基本的に「~している」となります。

4 単元と指導の構想

(1) 単元と児童(生徒)

- ・単元に関わって、児童(生徒)がどんな実態であるのか(レディネス)を記述します。単元に関わるこれまでの学習履歴についても記述します。
- ・単元設定の意義と単元のもつ価値を明確にし、授業者がどのような単元観をもっているのかを記述します。
- ・記述に当たっては、児童(生徒)の実態と、単元観を分けて記述しても構いません。

(2) 指導の構想

- ・上記「(1)単元と児童(生徒)」を受け、どのような手立てを講じて学習を進めていくのかを記述します。

5 単元の指導計画（全○時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評 価				
		関	考	技	知	
1	<p><例></p> <p>○(小数)÷(整数)の式の意味を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章題を読む ・課題をつかむ ・自分なりの考えで問題を解く 		○			<ul style="list-style-type: none"> ・規準を満たしている児童(生徒)の様子を具体的に記述します。 ・学習指導要領の指導事項との対応を記号で記述します。
2 本時	<p>・本時は太枠で囲みます。</p>					

・単元の目標達成のために学習活動をどのように構成していくのか、追究課題をどのように設定していくのかを検討します。

・単元全体を通して、各観点のバランスを考慮し、指導に当たることができるようにします。
 ・1時間の授業で評価する観点は1, 2に絞り、指導の重点化を図ります。

6 本時の計画（○時間目／全○時間）

(1) ねらい

<例> ○○について^①, △△することを通して^②, □□することができる^③。

・単元の目標を具体化し、この授業を終えた時に児童(生徒)がどのような姿になることが望ましいのか、どのような力が身に付いていけばよいのかを記述します。

◇「○○について^①」は、本時の学習内容や学習課題などについて記述します。教科によっては抽象度の設定が難しいために、記述しにくい場合もあります。

◇「△△することを通して^②」は、目指す姿にするための活動や手立てを記述します。

◇「□□できる^③」は、本時で目指す児童(生徒)の姿を記述します。

(2) 構想

・前時までの既習事項や学習履歴、児童(生徒)の達成状況を記述します。

・ねらいの達成に向けて、主に構想カード④⑤に当たる具体的な手立てや指導上の留意事項を記述します。

・児童(生徒)の主体的な学習活動が促されるように工夫する点を記述します。

(3) 展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童生徒の反応 (含む学習内容)	■評価規準(観点/方法)・○留意点
<p>導入</p> <p>1 ……。</p> <p>…。</p> <p>・児童(生徒)が主語になります。問題解決的な学習過程で、どんな活動を行うのかを、「1 ……する。」のように活動内容に番号を付けて記述します。</p> <p>・各学習活動にかける時間を記述します。</p>	<p>・一般的な発問・指示等は細枠で囲みます。</p> <p>T1 ……。</p> <p>・具体的な教師の働きかけは「T1,T2」などと表記して記述します。</p> <p>C1 ……。</p> <p>・予想される児童の反応は「C1,C2」などと、生徒の反応は「S1,S2」などと表記して記述します。</p> <p>・児童(生徒)の反応とともに獲得する学習内容(学習指導要領との関連)を明確に記述します。</p>	<p>○ ……。</p> <p>…。</p> <p>・指導上留意する点について記述します。</p>
<p>展開</p> <p>2 ……。</p> <p>…。</p> <p>追究に必要な働き掛けを記述します。</p>	<p>・本時のねらいを達成するための学習課題及び主な発問・指示等は太枠で囲みます。</p> <p>T2 ……。</p> <p>C2 ……。</p>	<p>学習課題及び主な発問や指示等は、「導入」段階に記述する場合もあります。</p> <p>○ ……。</p> <p>…。</p>
<p>終末</p> <p>3 ……。</p> <p>…。</p> <p>児童(生徒)が追究している姿や発言を記述します。</p>	<p>・学習のまとめを太枠で囲みます。</p> <p>T3 ……。</p> <p>C4 ……。</p> <p>T4 ……。</p> <p>C5 ……。</p> <p>このときの児童(生徒)は、評価規準が具体化された姿になります。評価規準に基づき、「おおむね満足できる状況(B)」を、児童(生徒)の姿で具体的に記述しましょう。</p>	<p>■ ……。</p> <p>…。</p> <p>・評価規準を書きます。その際、何に基づいて評価するかも記述します。</p>

(4) 評価

…………… (展開の ■ 評価規準 (観点/方法) ・ ○ 留意点) に沿って記述)。

- ・ねらいを達成した姿を、「おおむね満足できる状況(B)」について具体的な児童(生徒)の姿として記述します。
- ・何に基づいて評価するかを記述します。評価の観点は括弧内に記述します。

7 参考文献・資料

- ・指導案を作成する際に、参考にした書籍、先行研究、指導案等の出典等を記述します。

Ⅱ 生徒指導の視点を意識した授業

- 1 「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業
による生徒指導
 - (1) 生徒指導に対する考え方の転換 . . . 35
 - (2) 生徒指導の四つの視点との関係 . . . 35

- 2 四つの視点でみる「学習課題とまとめ・振り返り」
のある授業 . . . 36

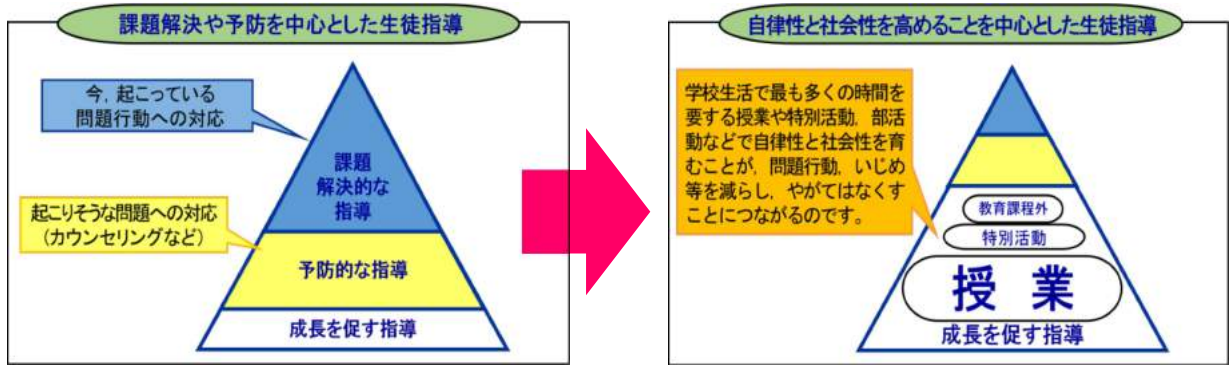
- 3 授業で意識し継続すべきこと
 - (1) 授業で指導する四つのこと . . . 38
 - (2) やり切る二つのこと . . . 38

1 「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業による生徒指導

(1) 生徒指導に対する考え方の転換 — 授業で生徒指導 —

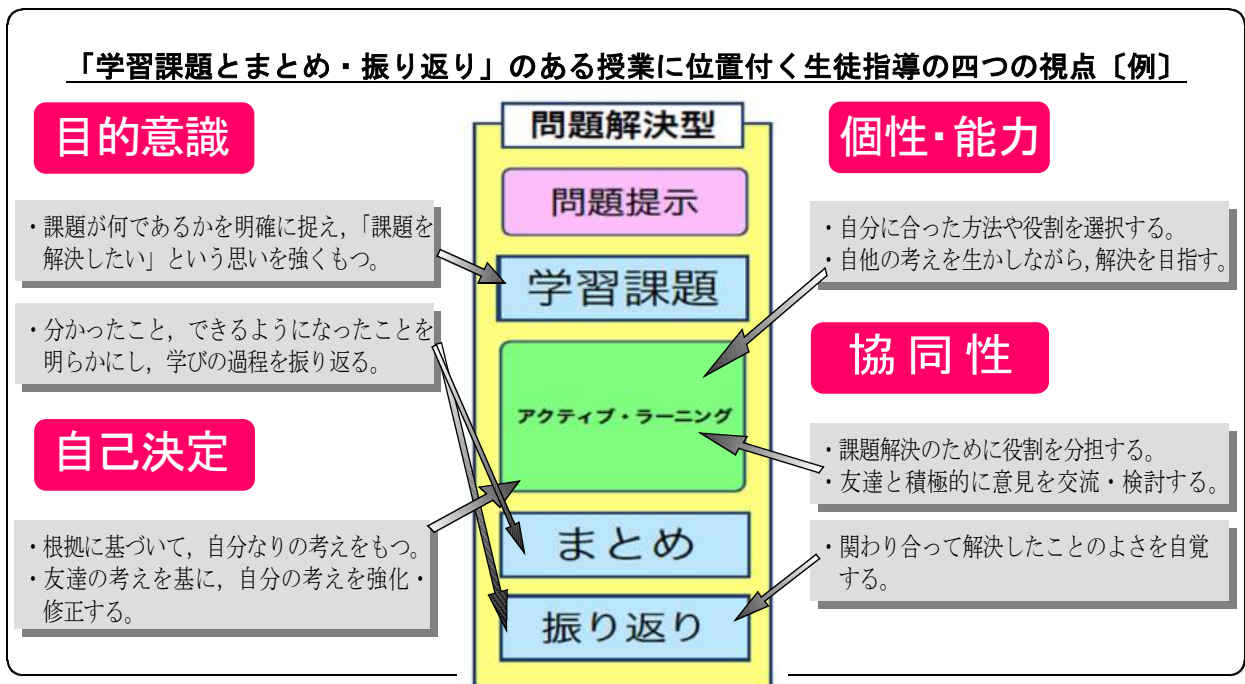
目の前の問題を解決することはとても大切なことです。しかし、それだけでは、また別の問題が起きるだけです。

学校生活で最も多くの時間を要している「授業」に注目し、自律性と社会性を高めることを中心とした生徒指導を行っていきましょう。



(2) 生徒指導の四つの視点との関係

授業で生徒指導を行うには、「生徒指導リーフレット」で述べている四つの視点（「目的意識」「自己決定」「個性・能力」「協同性」）を意識した授業づくりが必要です。この授業づくりは、「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業づくりと異なるものではありません。例えば、四つの視点は下の図のように、「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業に位置付きます。



2 四つの視点でみる「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業

問題提示

学習課題

目的意識

○ 明確な目的意識をもたせる。

教師から一方的に与えられた問題に答える学習や、教師の指示によって進められる学習では、子どもの主体的な学びは促されません。授業の導入部分では、子ども一人一人に具体的な目的意識や見通しをもたせるように働き掛けます。

今日はこの階段の形の面積を求めればいいんだね。

では、始めます。今日はこの階段の形の面積を求めてもらいます。

OOさんが言ったように、「階段」の形だから困ってしまうんだよね。ということは、学習課題は…

(フラッシュカード等でいくつか長方形の面積をテンポよく答えさせていった後に…)
このカードの時に、パッと面積を言うことができなかったね。OOさんの困っていることが分かるかな。

○月○日(○曜日) 面積

学習課題
どうすれば階段の形の面積が求められるか。

次の図形の面積は何cm²でしょうか。

- ・長方形ではない。
- ・長方形が2つつながっている。
- ・「長ぐつ」、「かいだん」に見える。

・2つに分ける。
・線を引く。
・長方形にする。

アクティブ
ラーニング

自己決定

個性・能力

○ 自分で解決方法を決めさせる。

○ 子どもの考えを生かしながら、解決に向かわせる。

子どもの考えを生かしながら、解決に向かわせることで、自己決定を促し、個性・能力を発揮させます。

まずは、全員で2つに分けて計算するやり方でやってみることにします。先生のやり方をよく見てみてください。

ぼくは2つに分けて計算して、合わせるやり方にしよう。

面積を求めることができそうな方法がいくつか出されたね。自分で一つ方法を選んでやってみよう。

たて 横

① $5 \times 3 = 15$
② $3 \times 4 = 12$
① + ②
 $15 + 12 = 27$

① $2 \times 3 = 6$
② $3 \times 7 = 21$
① + ②
 $6 + 21 = 27$

A 27cm² A 27cm²

例：算数 小学校4年・単元「面積」

まとめ

目的意識

○ みんなで力を合わせて解決できたことを確認する。

終末部分では、学習課題に立ち返り、本時の課題が確かに解決できたかどうかを確認するように促すとともに、みんなで力を合わせて解決できたことを確認します。

今日の学習課題は「どうすれば階段の形の面積が求められるか。」だから、まとめは「切ったり動かしたりして、長方形にすれば面積が求められる。」になりますね。ノートに書きましょう。



今日は、階段の形の面積はどうやって求めればいいのかについて、勉強しました。同じ階段の形でも、いろいろな考え方があることが分かりましたね。

この学習課題に対するまとめはどのように言えるでしょうか？4つのやり方で、共通することを見つけて、まとめをしましょう。

切ったりずらしたりして、長方形に直してから、たて×よこで計算すればいい、がいいと思います。



にしているところ

■ かけ算を使って面積を求めている。
■ 長方形にしている。

え：長方形から出した分をひく。

① 5 × 7 = 35
② 2 × 4 = 8
① - ②
35 - 8 = 27

A 27cm²

まとめ
切ったり動かしたりして、長方形にすれば面積が求められる。

アクティブ
ラーニング

協同性

○ 個人の疑問やつぶやきを全体に広げる。

「分からない!」「困った!」という個人の疑問やつぶやきを全体に広げます。

「え」のやり方で悩んでいる人がいますね。グループで「え」のやり方について考えてみましょう。みんなが分かるような説明を考えましょう。



私は「え」のやり方がよく分からないのに。「え」のやり方を知りたいのになあ…。



「え」のやり方で悩んでいる人がいるけれど、今は、「あ」「い」でできているから大丈夫だよ。

振り返り

協同性

○ 関わり合って解決したことのよさを評価する。

関わり合うことの大切さを実感させます。

みんなから、やり方を説明してもらって、よく分かるようになったよ。

先生がこれからゆっくり説明すると、きっとみんなは分かります。よい姿勢で黒板に注目してください。



みんなで説明をし合って、よく分かるようになったね。図を使って説明したところがよかったね。みんな納得かな？



3 授業で意識し継続すべきこと

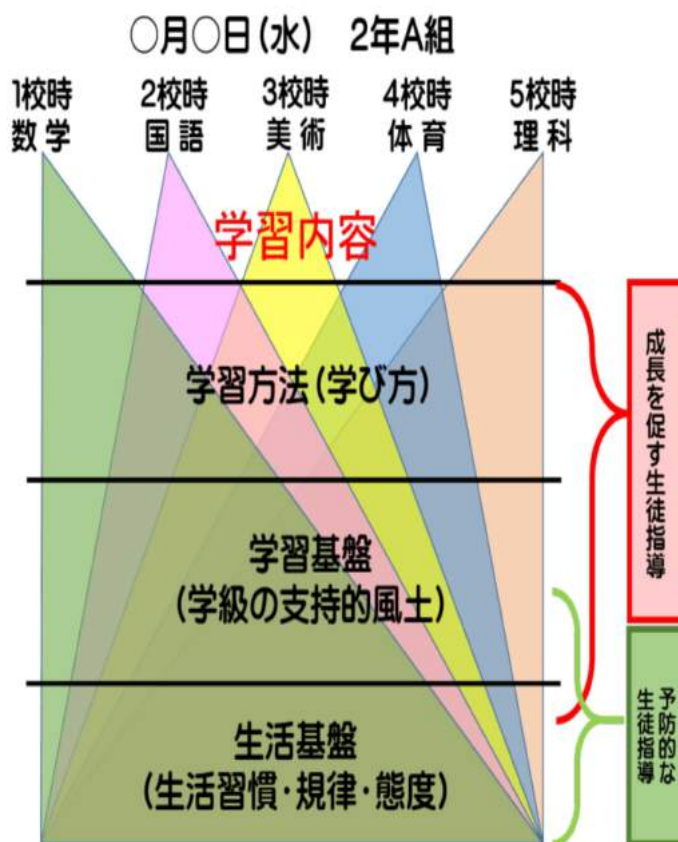
(1) 授業で指導する四つのこと

右の図のように、毎時間の学習内容は教科によって異なります。

しかし、学習方法(学び方)、学習基盤(学級の支持的風土)、生活基盤(生活習慣・規律・態度)は、共通する部分が多くなっていることが分かります。

子どもに学習方法(学び方)を身に付けさせたり、学級の支持的風土をつくったりすることは、授業者がそれらを意識して、継続することでしか実現しません。

取組を意識して、継続させる中で、「目的意識を醸成」したり、「自己決定」を促したり、「個性・能力を發揮」させたり、「協同性を發揮」させたりするのです。



(2) やり切る二つのこと

まずは、子どもたちが安心して学級で過ごせるようにすることが必要です。

教師は子どもたちに積極的に関わり、良好な人間関係を保ちながら、次の二つを促します。

- 人を傷つける言葉や行動を許さないこと
- 人の話は最後まできちんと聞くこと

このことは、しばらく様子を見てからという内容ではありません。年度当初、子どもたちと出会った瞬間から、徹底する必要があります。

子どもたちは教師がどのような対応をするのかをしっかりと見ています。

Ⅲ 全ての子どもが 安心して参加できる授業

- 1 全ての子どもが安心して参加できるための授業の視点
* 「基礎的環境整備の例」「合理的配慮の例」・・・40

- 2 合意形成に基づいた合理的配慮の実施・・・42

1 全ての子どもが安心して参加できるための授業の視点

ここでは、「基礎的環境整備」と「合理的配慮」の視点から「全ての子どもが安心して参加できる授業づくり」について説明します。

基礎的環境整備の例

※障がいのある子どもに対する支援のために必要な教育環境が整備されること

①スケジュールの視覚化



- 1週間や1日の予定を見やすく提示。
- 急な予定の変更を視覚的に分かりやすく事前に伝達。



- 見通しをもたせるために活動の流れを視覚的に提示。

②教室及び学習用具の整理整頓

- その時間に必要な学習用具を授業の始めに確認。
- 自分の学習用具の整理方法を指導し、整理の時間を確保。
- 教室の用具の置き場所を固定し、整理方法を提示。



③ルール of 明確化

- 学習活動のルールを分かりやすく提示。
 - 学校生活のルールを分かりやすく提示。
- 例 声の大きさ



上のような取組により、学級づくりや授業づくり（基礎的環境整備）を充実させていきます。しかし、そのような取組をしても次のように個別の課題のある子どもに対しては、右のような配慮が必要となります。

合理的配慮の例

※障がいのある子どもが他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を行使するため、個々に必要となる適当な変更・調整が提供されること



教科書がすらすら読めない。
漢字の練習をしても覚えられない。
みんなと同じようにできるようにしたい。

いらいらすると、大きな声を出してしまう。
自分の思いをうまく伝えられないと、不安が強くなってしまいます。



学校全体として取り組む基礎的環境整備の例

【校内委員会を中心とした支援体制】

- 気になる子どもについての報告、支援方法での悩みの相談などを行う。
- 専門的な視点から気になる子どもの実態を検討したり、専門機関との連携を進めたりする。
- 保護者や本人のニーズを受け止め、個別の教育支援計画を検討し、保護者と連携を図る。

【施設・設備の整備】

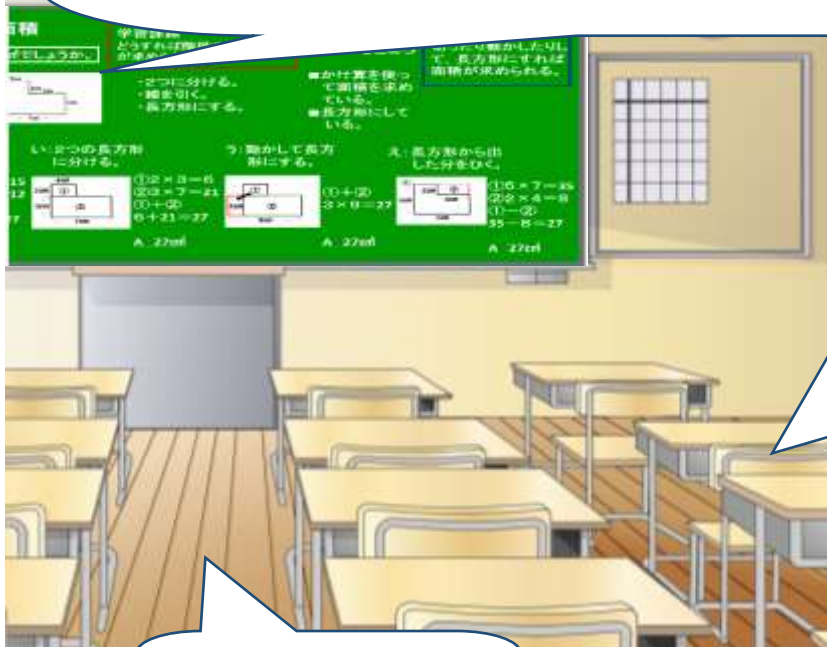
- 障がいのある子どもにも生活しやすい環境を整える。 例 スロープ、手すり、洋式トイレ
- 誰でも使いやすい特別教室や準備室の整理 例 物品の置場所の構造化

- 「学習課題とまとめ・振り返り」のある授業。
- 子どもが興味・関心を高めるような導入の工夫。
- ノートに書き写しやすい板書： 一目で分かる工夫：赤枠，青枠
- 解決の見通しの確認。
- 視覚的な資料による分かりやすい提示。
- 子どもの考えの可視化。

④主体的な参加の工夫



テレビを利用した教材の提示。



- 子どもの実態に合わせて座席の位置を工夫。

⑤刺激量の調整

- 集中しやすいように教室前面の掲示物の精選。



- 教室内の不快な音の軽減。



保護者と合意形成をして行うその子どもだけに実施する個別の配慮を「合理的配慮」といいます。

- デイジー教科書(★)を使って家で音読練習したら、学校でも読めたよ。
- テストの時は、先生が問題を読んでくれるので答えを書くことができたよ。

- いらいらした時に深呼吸をする練習を通級教室で練習したよ。
- 学習活動の予定を教えてもらって、いらいらしやすい時間の参加の仕方を相談したよ。

★通常の教科書の内容をパソコンなどの活用により音声と文字で同時再生できるようにしたもの。



2 合意形成に基づいた合理的配慮の実施

保護者から合理的配慮の依頼があった場合、あるいは、合理的配慮が必要だと思われる児童生徒の状態に気付いた場合、どのような手続きをとるとよいのでしょうか。

具体的なケースを基に説明します。合理的配慮を実施する際には個別の教育支援計画の作成が必要となります。

① 個別懇談会で保護者から希望がありました。

一人では判断できない場合には、特別支援教育コーディネーターの先生にまず相談し、再度懇談することになります。

先生、授業中に落ち着きがない様子で心配です。……個別に配慮をお願いできると聞いたのですが……。



お母さんの心配はよく分かりました。何かよい方法があるかを専門の先生と検討してから、再度ご相談させてください。

② コーディネーターの先生に相談します。

コーディネーターの先生から「実態把握を試みましょう」とアドバイスがありました。

〇〇先生！〇〇さんのおうちの方から個別に配慮をしてほしいと言われたのですが。



どんな時に落ち着かなくなるのか1週間記録してみませんか。



チェックシートのアドバイスもありました。

③ 合理的配慮が必要かどうか判断するための資料を収集します。

読んだり書いたりする活動がたくさんあると、離席したり身体が動いたりします。



特別支援教育コーディネーター

専門家に相談してみませんか？教頭先生にお願いしてみます。先生は保護者の了解をお願いします。

個別の教育支援計画

氏名	
保護者名	
学校名	中学校
学年・組(年度)	1年 組() 2年
記入者名	
入学前や在学中の様子	
将来の生活 現在の生活についての希望・願い	【本人】 【保護者】
支援機関等(家庭・地域・福祉・医療)の情報	「こんなことがしたい」「こんなふうになってほしい」という本人や保護者の将来の夢や希望を記入しニーズを確認します。
学校生活で提供する合理的配慮	

個別の教育支援計画について了解し、確認しました
平成 年 月 日
※なお、記載事項の変更・修正については、相談記録の了解、確認をとります。

【裏 面】

個別の教育支援計画

相談日	相談参加者等
	記載事項について了解し、保護者

④ どのような合理的配慮が必要かを検討します。個別の教育支援計画を作成します。



教頭先生

サポートセンターの方をお願いし、校内委員会で相談しましょう。参加者は、・・・でいいですね。個別の教育支援計画も準備しましょう。

- 児童生徒の課題を確認します。
- 児童生徒の実態から必要な配慮を確認します。
- 実施する支援について、「誰が」「何を」「する」といった役割分担をします。

個別支援計画

作成日：平成 年 月 日

姓・名	電話
	連絡先
住所	

本人が得意としていること、興味をもっていることや苦手なことを記入し、課題を確認します。

関係する職員が参加し、校内委員会で話し合いました。

- 宿題の量が多いので時間で区切る等、本人が集中して取り組める量にしてはどうか。
- ICT 機器を使いたいという希望が出ることも考えておく必要があるのではないか。
- 1 時間の活動が苦手な活動だけで構成されないように、話し合う活動やペアの活動を取り入れてはどうか。
- 専門機関から詳しい実態把握をしてもらってはどうか。

⑤ 個別の教育支援計画を基に保護者と相談をし、合意形成を図ります。

具体的な支援方法を伝え、保護者の疑問に答えるなど合意形成に向けた話し合いを行います。合意形成をしたことは個別の教育支援計画に記入します。署名をいただきコピーを取り、保護者と学校の両方で保管します。

保護者氏名（白筆）

確認の署名をしていただきますよう。

計画【相談記録】

支援計画内容確認・変更等

確認しました。

香氏名（白筆）

授業の中では・・・といった取組、宿題については・・・としたいと考えていますが、いかがでしょうか。

そのようにしていただけると、家庭でもゆったりした気持ちで対応できそうです。ありがとうございます。

⑥ 合理的配慮が有効であったかを保護者と確認します。必要に応じて修正を図ります。

- 一定期間を振り返って、保護者と評価をします。
- 児童生徒の変化を事実に基づいて確認し、合理的配慮の修正について確認します。
- 修正がある場合は記載します。
- 裏面の「相談・支援・連携の記録」に記載します。



新潟市の鳥「ハクチョウ」
シンボルマーク